

バーナード・リーチ氏の 展覧會を観る

一 記者

英國人バーナード・リーチ氏が、上野櫻木町の新居に於て、十月一日から十日間、エッチング及びドローイングの展覧會を開くと云ふことが、通信に見えた。早速駆け付けやうと思つたが、生憎多忙なものと、櫻木町は我寓居に近いけれども、其範圍は甚だ廣く、所謂燈臺下と暗らして、其地理は一向不紊内なのに、番地さへも明かでないのだから、探して廻る暇が惜しい。そこで、先づ家妻に命じて、夕刻の散歩の際に地理を偵察せしめることとした。やがて彼女は吉報を齎らして歸つた。其情報に依れば、寛永寺塔中の寺院が近頃多く取拂はれて、今は一面に地割が出来て、頻りに住宅が新築せられつゝある、其新築の一つで、某氏々々の宅の附近にある。純然たる日本風の一構ださうである。日没後のことなので、彼女はそこそこやと探り廻つた末、とある新築の格子戸の外に立つて、折ふし微かに漏れ来る話聲を便りに、尋ぬる其家の所在を問ふた、「それは此家です」と答へて、ランプを持つて現はれたのが、意外にも洋畫家長原孝太郎君であつて、續いて出で來れる身長高き西洋人に向つて、予が氏の展覧會參觀を希望しつゝある旨を、家妻の言に依つて通話せられて、明日午前は在寓故來觀せよとの答を傳へられた。年若き西洋人にして、一樂の和服に白き縮緬の兵児帯を巻き居たりと云ふ。本年二月來朝せりと通信に見ゆる外人にして、上野の山の奥、彼の寂寥の地に日本風の家屋を建て、日本服を身に纏ふとは、さすが美術家氣質ぢやわいと、予は獨語した。

翌朝彼女の告げ示せる路を辿つて、天王寺墓地の南方の境界に近き一の小路を突き進んで、某氏某氏の家の前を通つて、新築の貸屋の櫛比するところを過ぎて行くと、右側に三尺幅の路次口



スチユディアに於けるリーチ氏

に、白木の門柱の上部に、麻布を横たへて、"The Exhibition of Etching & Drawing. By Bernard Leach." 云々と墨にて書き付けてあるのを見付けた。路次に接した新築で、櫛子窓のある、入口は格子戸の一構が、氏の假寓らしい、路次に沿へる臺所には下婢が立働らいて居た。路次の奥に入る

と二間四方位な仕事場、今は即ち展覧會場があつた。北向の家で、通則に従つて、北方の屋根を硝子張りにして光線を探るとにしてある。案内を求め様として、開け放たれた戸口に立つと、折節一人の日本紳士と對話中なりし、淺い紺色の脊廣を着けた主人公は立つて予を迎へて、慇懃に招せられた。

歳は三十前後と見ゆる品格ある好紳士である。先客の談話中に、予は室内を一巡した。四方壁にして、東と西と相對して、一尺位の細窓が壁の中段の處に横に切られて、磨硝子の戸が締められて、草色の木綿の布片で、光線が遮つてあつた。北の屋根の硝子張の處にも、同じ木綿の布片で、一部分光線を加減してある。四方の壁には自作のエッチング、素描畫などが、蠟色塗の細縁の硝子張の額面に入れて、白い細い木綿の組紐で吊るしてある。其白い並行せる垂直の二條の紐と、黒い細い額縁と相對照して一種の異觀である、併しそれは決して不快の感を起こさぬ。其趣味は寧ろ日本的で濫いエッチングの畫面との調和も佳い、梁もあらわに質素なる日本風の仕事場には適當して居る。さすがは調和を生命とする美術家の考案であると言首肯せらる。壁の色は鼠がよつた、薄い、併し微かに暖か味を含んだものである。

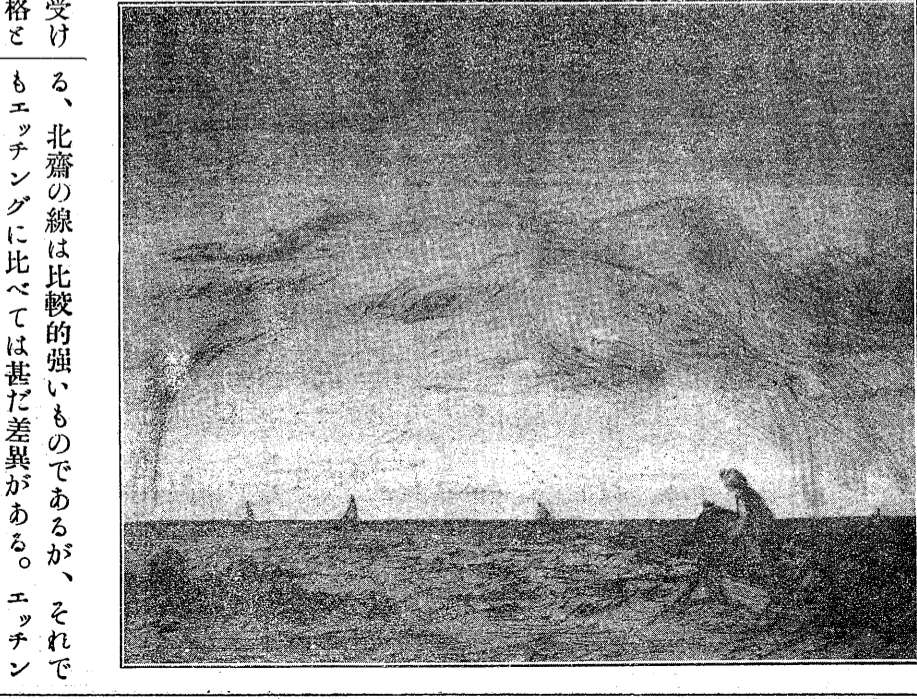
室の中央に凡三尺四方、深さ凡二尺餘位の頑丈な木の箱が二個置かれて、テーブルに代用せられて、其上には鐵瓶を懸けたる火鉢、煙草盆、インキ壺、銅版、書冊、其他が雜載せられて居る。客と主人とは凡二尺四方深さ凡一尺餘と覺ゆる箱の上に黒天鵝絨の坐蒲團を敷いたのに腰打掛けて居る。此等の箱は、歸國の際に其作品や機械を運び去るべき用意にもやと察せられる。

室の東南隅に印刷機が一臺据ゑられて、彫蝕せる銅版の兩三面が其の上に置かれてある、他の一隅には臺の上に藥液入の瓶、鍍入の印刷肉、鐵盤、銅版其他の用具が整然と置かれて居る。是は今説明の便に供する爲に配列せられてあるのであらう。

額はエッチング、素描畫とも約四五十點もあらうか、英國にての作品の方が多様に見受けられた。額面下方の一角に紙片を挿んで書題と價格とを英文で書き付けてある。拾圓乃至七拾圓位迄あつた様に記憶する。日本人にしてエッチングの一面に七拾圓ををろか、せめて拾圓でも奮發する様になれば、我美術界も大分面白くなるであらう。書題は人物もあり、建築もあり、都邑の景色も、海の景色もあるが、最も多いのは郊外の風景で、又

た雨とか風とか云ふ特徴ある景を選んだのが多い様だ。そして其單色なる線畫を以て能く特徴の感じを畫面に漲らして居るのは敬服だ。

エッチングに就ては予は嘗て二三の友人が試みたものを見、又複製されたものは屢々外國美術雜誌で見受けるが、外國人の原作は此度初めて接したのである。濫いものである、雅致のあるものである。或は日本木版とエッチングとを其趣味に於て相等しきものと云ふものがあるが、其線に於ける強い深い氣持は中々日本木版では現はれまい、木版の特色は矢張り輕妙な處にある様だ。エッチングの重い強い深い味は自ら是れ別調であ



『鯖 魚』バーナード・リーチ作 (ドライポイント)

る、北齋の線は比較的強いものであるが、それでもエッチングに比べては甚だ差異がある。エッチングと日本木版とは其趣味は甚だ相似たるが如くであつて、實は頗る相異つたものである。

併し又思ふに、嘗てアルフレッド・イーストが、畫家が自然より直接に蝕蝕版を製することに就て論じたとき、其結論が斯うであつた。

『極簡の手法もて極大の成果を得ること、是實